

平成28年度 現地説明会資料

国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」 正倉域（大溝）確認調査

開催日時；平成 28 年 12 月 3 日（土）
13 時～ 14 時

- 1 遺 跡 名 国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」
- 2 調 査 目 的 保存目的のための範囲確認調査
- 3 所 在 地 鹿嶋市大字宮中 139 番地 1 ほか
- 4 調 査 面 積 約 6 0 0 m²
- 5 調 査 期 間 平成 28 年 10 月 7 日～平成 29 年 2 月 22 日
- 6 調 査 主 体 者 鹿嶋市教育委員会
- 7 調 査 機 関 （公財）鹿嶋市文化スポーツ振興事業団



第 1 図 国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」及び旧郡家跡
推定位置図（国土地理院 1/50,000 地形図を加筆修正）

（1）遺跡の立地

郡家跡は鹿島神宮から南へ約 1.5km の標高約 32 ～ 34 m の鹿島台地の神野向支丘に位置します。昭和 61 年 8 月に国指定史跡となり、現在は約 73,600m²が指定を受け、国指定の郡家跡としては最大規模を誇ります。

国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」は、鹿島神宮・沼尾神社・坂戸神社の境内及び古代の鹿島郡の行政機関としての郡家跡が国史跡に指定されたため、これらを含めた総称です。

（2）これまでの成果

鹿島郡家跡は、昭和 55 年 2 月の個人住宅に伴う発掘調査を皮切りに郡家の範囲確認調査を実施し、昭和 56 年度から奈良国立文化財研究所（現独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）平城宮跡発掘調査部の指導を受け、郡家解明のため本格的に学術調査を開始し、昭和 63 年まで続けました。また、平成 27 年度から 5 ケ年計画で、史跡整備のための内容確認調査を行っています。

郡庁は、3 時期の建物変遷を確認しました。第 1 期は郡庁創建期で、南北に長大な建物を配し、一本柱塀を連結させた区画施設内に正殿を配置します。区画施設の規模を復元すると、南北総長約 51.9 m、東西総長約 53.1 m の正方形に近い形となります。第 2 期は、第 1 期の両脇殿及び連結した南北の一本柱塀や正殿建物を撤収し、位置は基本的に踏襲して、郡庁の四周を掘立柱の回廊で取り囲み、正殿が建てられます。正殿の規模構造に若干の変更がみられ、正殿の南に前殿が設けられました。第 3 期は、第 2 期の建物を全面的に撤収し、位置は基本的に踏襲して回廊が巡らされます。区画寸法から推定し、いくぶん 2 期の正殿・前殿建物の柱間と若干異なりますが、ほぼ等しい寸法で踏襲した正殿・前殿が建てられます。正殿に南北の廂（南九尺、北八尺）が取り付くと考えられます。平成 27 年度の調査では、昭和 59 年度に調査した掘立柱建物の正殿・前殿の東西の幅を確認しました。正殿と前殿の幅は約 15.5 m を測り、柱間は 1 期が 5 間、2・3 期が 7 間と推定できます。間尺は 1 期が 10 尺等間、2・3 期は前殿・正殿ともほぼ同じと想定でき、中央の 3 間が 7 尺、東西の 2 間ずつがやや広い間尺です。これらの建物の計画された方位は座標軸とほぼ一致します。また、南門は、後世の大溝に破壊され全く残っていませんでしたが、溝を調査したところ、門の柱穴跡が見つかっています。

正倉は、南北約 180 m、東西約 150 m の範囲で大溝に区画された地域に 3 時期の建物変遷を確認しました。建物は、総柱の掘立柱建物 1 棟、掘立柱建物 8 棟、礎石建物 12 棟見つかります。重複関係から雑舎建物を除くと大きく 3 時期の変遷が考えられ、総柱掘立柱建物→礎石建物（掘込地業）→掘立柱建物（礎石建物位置を踏襲する建物）と移行します。大溝の規模は、幅 4 ～ 5 m、深さ約 1.5 ～ 2.5 m です。調査で大溝に付随する柵又は土塁は確認できませんでした。また、西面南北溝・南面東西大溝西端域からは炭化材に混じり多量の炭化米を検出しました。多量の炭化米の出土は、建物火災を想定することができます。土層から礎石建物時期に火災に遭遇していることを確認しました。

厨家は、郡庁から東約 50 m 地点で確認し、3 時期の建て替えが行われた小規模掘立柱建物と竪穴遺構を検出しました。この竪穴遺構からは、炭化米のブロックや多量の墨書土器が出土しました。



(3) 平成 28 年度
正倉域調査の成果



3 トレンチ
確認できた大溝の上幅は約 2.3 m 以上で、現代大溝に大部分を壊されています。
東側では掘立柱建物跡の柱穴が見つっています。



6 トレンチ
確認できた大溝の上幅は約 3 m、底幅約 1.7 m で、
現地表面からの深さは 1.3 m です。大溝の北西コー
ナーでは北にのびる溝が確認されています。

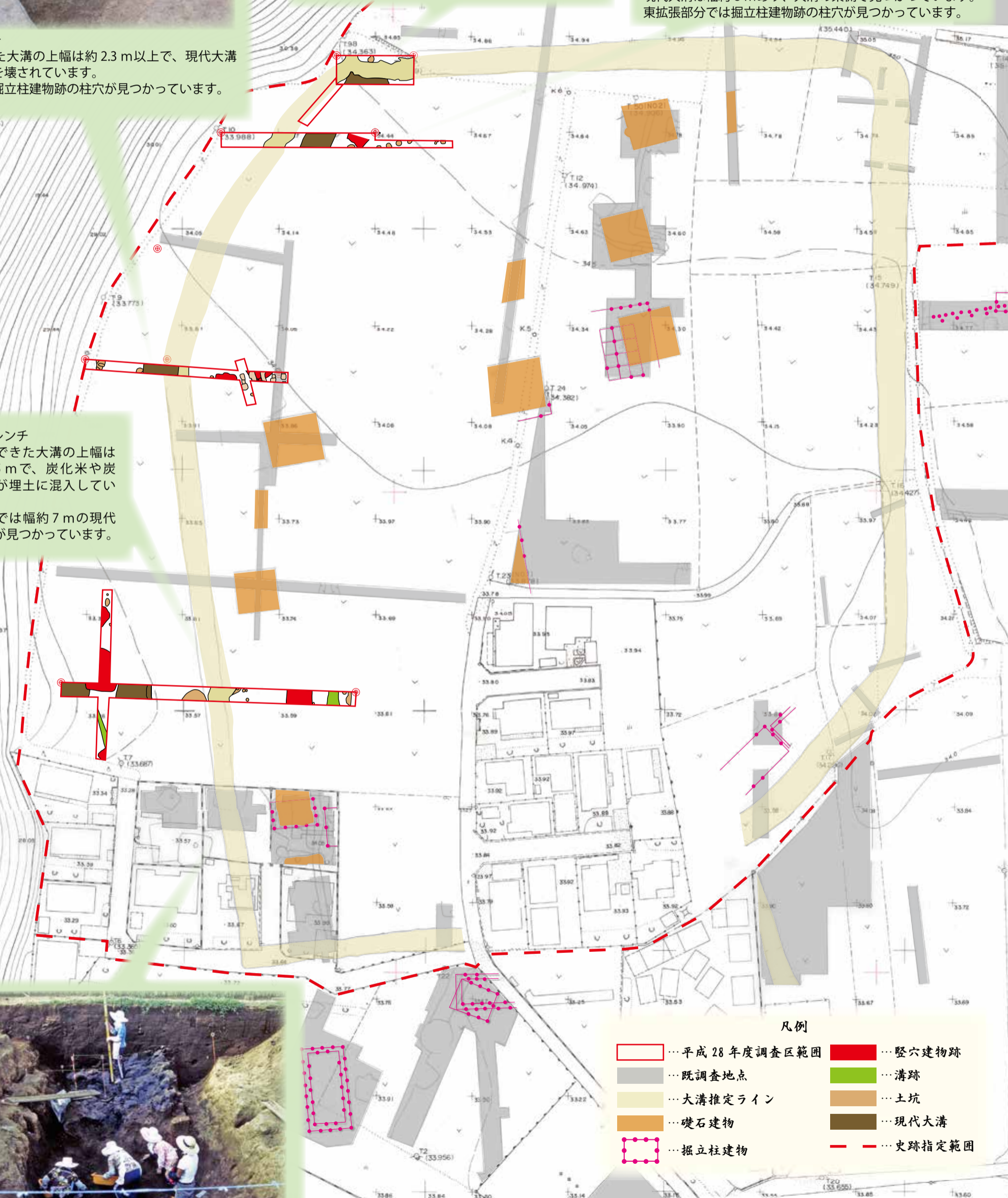


5 トレンチ
確認できた大溝の上幅は約 4.5 m、底幅約 1.6 m で、現地表
面からの深さは 1.7 m です。
現代大溝は幅約 8 m あり、大溝の東側で見つっています。
東拡張部分では掘立柱建物跡の柱穴が見つっています。

1 トレンチ
確認できた大溝の上幅は
約 4.5 m で、炭化米や炭
化材が埋土に混入してい
ます。
西側では幅約 7 m の現代
大溝が見つっています。



昭和 55 年度の大溝調査風景



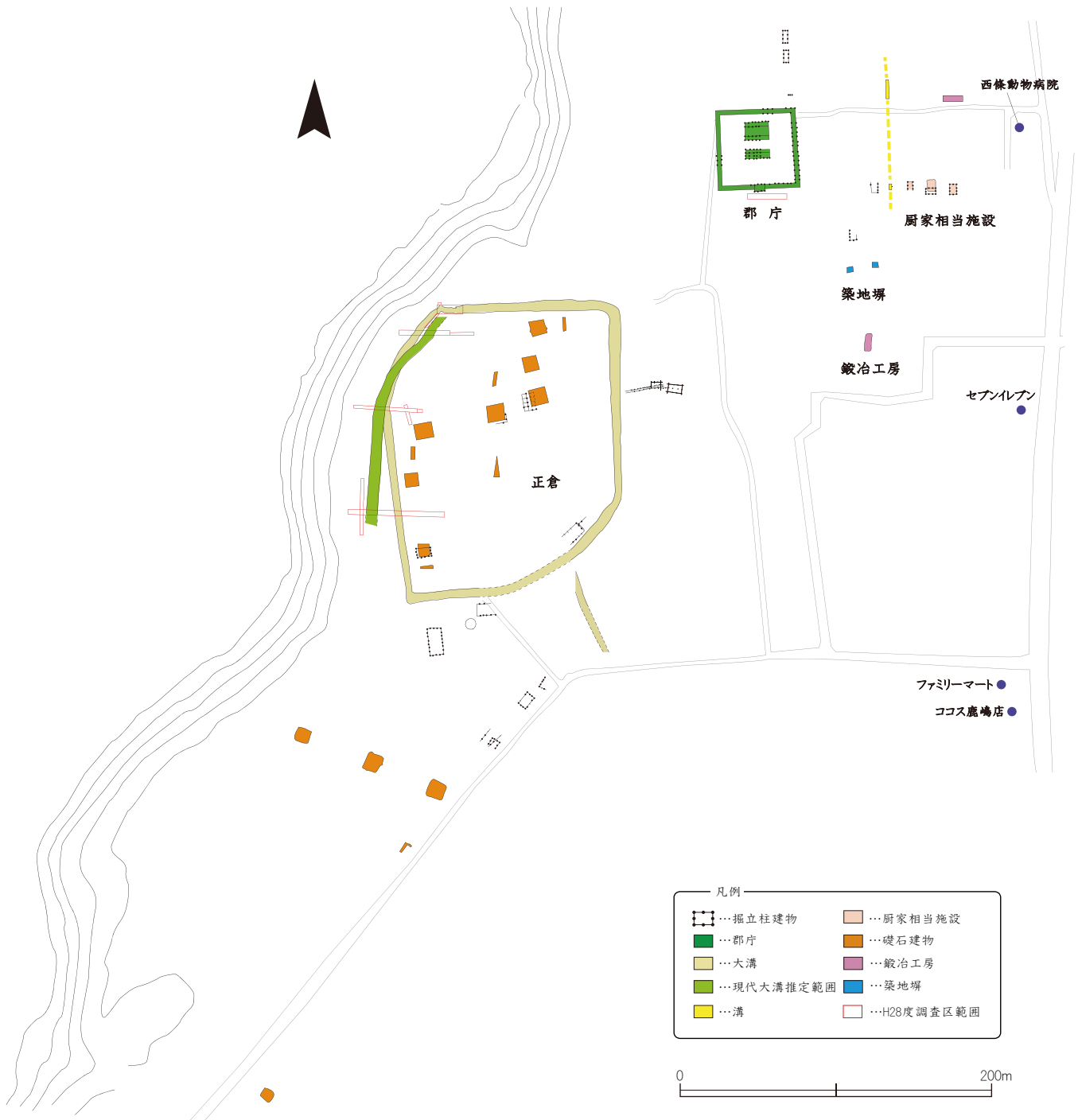
凡例

- …平成 28 年度調査区範囲
- …既調査地点
- …大溝推定ライン
- …礎石建物
- …掘立柱建物
- …竪穴建物跡
- …溝跡
- …土坑
- …現代大溝
- …史跡指定範囲

第 2 図 平成 28 年度発掘調査区及び正倉域遺構配置図

(4) 郡庁南門の調査成果

昨年度南門の確認調査を行ったトレンチの南側にトレンチを設定し、郡庁の第1期の南門の痕跡の確認を行っています。今回の調査区では1期の門や扉の柱跡は検出されませんでした。南門は1～3期とも同じ位置に建て替えていたと考えられます。



第3図 鹿島郡家跡遺構配置図

※遺構の解釈については、平成28年11月30日現在のものであり、今後調査や検討によって変更する可能性があります。

『平成28年度国指定史跡「鹿島神宮境内附郡家跡」現地説明会資料』
 編集：鹿嶋市教育委員会社会教育課・公益財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団ときどきセンター
 発行：平成28年12月